学校番号	1301

令和８年度　家庭科

教科	家庭	科目	家庭基礎	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	Creative Living『家庭基礎』で生活をつくろう　改訂版　（大修館）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

家庭生活を通して広く社会を見る目を持つことを目標に積極的に取り組みましょう。
・生活の様々な現象や課題をワークショップ・演習・映像教材等を通して考え、理解を深め知識を身につけます。友だちの考えを知り、多様な考え方を学び、自分の考えをもちましょう。
・実践的・体験的な学習を通して、科学的な理解に基づいた確かな技術を身につけます。
・学んだことを自分の生活の問題として捉え、よりよい生活をめざします。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
人の一生と家族・家庭及び福祉,食生活、保育、環境・SDGs などについて，生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに，それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】
家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善し，考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど，生涯を見通して課題を解決する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】
様々な人々と協働し，よりよい社会の構築に向けて，地域社会に参画しようとするとともに，生活文化を継承し，自分や家庭，地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技術	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識や技術を身につけている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて生活の充実向上を図るための課題を見いだし、その解決をめざして思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身につけている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて関心をもち、その充実向上をめざして主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
ステージ1	青年期と家族	青年期 ・生活設計 ・青年期の自立 ・青年期の課題 ・職業選択 家族 ・家族・家庭と社会	a: 家族の多様な在り方について調べ、理解することができる。 各ライフステージの特徴と課題について理解している。 婚姻、夫婦、親子等に関する法律の基本的な趣旨を理解している。 家事労働と職業労働の意義と特徴、現状と課題について理解している。 b: 生涯発達の視点で各ライフステージの課題に関心を持ち、その解決のため考えようとしている。 c: 男女が相互に協力して家庭や社会を築くことについて具体的に考え、まとめたり発表したりしている。	・テスト ・ワークシート	・テスト ・ワークシート ・レポート	・授業観察 ・自己評価 ・発表
	保育・高齢期・共生社会	保育 ・胎児・乳幼児の発達 ・子どもと家庭 ・子どもと生活 高齢期 ・高齢期の特徴と生活 ・高齢社会を生きる 共生社会 ・社会保障 ・ノーマライゼーション	保育 a:子どもの権利や福祉について、法律や制度などの情報を収集・整理することができる。 子どもの発達に家庭生活が果たす役割の重要性を理解している。 子どもを取り巻く環境の整備や社会全体での子育て支援の重要性を理解している。 b:実践的・体験的な活動を通して、保育に関心を持ち、学習に取り組もうとする。 c:親の役割や子どもを産み育てる意義、子どもを取り巻く環境の変化や課題について、考えてまとめたり、発表したりしている。	・テスト ・ワークシート	・テスト ・ワークシート ・レポート	・授業観察 ・自己評価 ・発表

		高齢期 ・高齢期の特徴と生活 ・高齢社会を生きる	a:高齢者の身体的、心理的特徴について理解している。 高齢者が自立した生活を送ることの重要性について理解している。日本の高齢化について理解している。 b: 高齢期の生活について考えようとする。 c: 高齢社会の現状と高齢者を取りまく社会の問題について考えてまとめ、発表したりできる。	・テスト ・ワークシート	・テスト ・ワークシート ・レポート	・授業観察 ・自己評価 ・発表
		共生社会 ・社会保障 ・ノーマライゼーション	a:共生社会の重要性について理解し、地域やNPO活動などの情報を収集できる。 b: 共生社会を実現するために、社会の一員として何ができるか考え、工夫している。 c: 共生社会における家庭や地域の一員として主体的に行動しようとしている。	・テスト ・ワークシート	・テスト ・ワークシート ・レポート	・授業観察 ・自己評価 ・発表
ステージ2	食生活	・食事と健康 ・栄養と食事 ・栄養素 ・家族の栄養 ・献立作成 ・食生活の課題 ・食料自給 ・食品と調理 ・食品の特徴 ・調理の基本 ・食生活の衛生 ・食生活の安全	a:主体的に食生活を営むために必要な知識を身につけ、食事が健康と深く関わっていることを理解する。食中毒や社会における食の安全について理解する。 食品の栄養的特質、調理上の性質について科学的に理解している。資源に配慮した食品の購入、調理、保存などについて理解している。行事食、郷土料理、伝統的食品の食文化とその背景について理解する。 b: 自分や家族の食生活について関心を持ち、食事調査、献立実習などに科学的な視点からの考察を行うことができる。 c: 自分の食生活を振り返り、食生活の傾向と問題点について考え、まとめたり、発表したりしている。食事摂取基準や食品群別摂取量の目安を活用し、経済、能率、嗜好を踏まえた献立を考え、工夫できる。	・テスト ・ワークシート	・テスト ・ワークシート ・レポート	・授業観察 ・自己評価 ・発表

	衣生活	・被服の機能 ・被服材料 ・被服構成 ・被服の選択 ・被服の購入 ・被服の管理 ・資源としての被服	a.被服の入手、洗濯、保管などの衣生活の管理ができ、科学的に理解している。資源の有効利用の観点から、購入、活用、手入れ、保管、再利用、廃棄までを考えた循環型の被服計画の必要性を理解している。 b:被服材料に応じた被服の整理や適切な衣生活の管理について考えようとしている。 c:保有する被服の有効活用や計画的な入手について考え、工夫している。被服材料の性能や被服の構成に適した手入れについて考え、まとめたり、発表したりしている。	・テスト ・ワークシート	・テスト ・ワークシート ・レポート	・授業観察 ・自己評価 ・発表
ステージ3	住生活	・住居と家族の生活 ・住居の機能 ・平面計画 ・住居の選択 ・住生活の安全 ・住生活の健康 ・地域の住環境	a:住生活の計画に必要な情報を収集し理解できる。家族構成やライフステージの変化と住要求の関係について理解している。 住居の機能や住空間の計画について科学的に理解している。 b:安全性、保健性、快適性、持続可能性などの面からよりよい住環境について考えようとしている。 c:ライフスタイルや価値観に応じた適切な住居の主体的な選択について考えている。	・確認テスト ・ワークシート	・確認テスト ・ワークシート ・レポート	・授業観察 ・自己評価 ・発表

	消費生活・環境	消費生活 ・消費者問題 ・消費者の権利 ・契約 ・販売信用 ・消費者問題 ・消費者の権利 ・生涯の経済計画とリスク管理 家計管理	a:家庭の経済の諸課題についての具体的な事例を収集・整理することができる。 家計と経済社会の関わりを理解し、消費行動における意思決定の重要性を理解している。消費者問題について理解している。 b:消費者の権利や消費者支援の制度に関心を持ち、自立した消費者として行動しようとしている。 c:家計の特徴について、資料を活用して考え、まとめたり、発表したりしている。 消費者問題の被害防止や救済について、事例を通して考え、まとめたり発表したりしている。	・確認テスト ・ワークシート	・確認テスト ・ワークシート ・レポート	・授業観察 ・自己評価 ・発表
		環境 ・消費生活と環境とのかかわり ・消費行動と環境 ・環境負荷の少ない生活への取組 ・環境を守る生活の工夫	a:環境に配慮した消費行動に必要な情報を収集・整理することができる。 大量生産、大量消費、大量廃棄型社会の見直しの必要性を理解している。 b:自己のライフスタイルや生活資源の有効利用の視点から将来の生活設計について考えようとしている。 c:自己のライフスタイルの実現を目指して、生活設計を考え、まとめ、発表したりしている。	・確認テスト ・ワークシート	・確認テスト ・ワークシート ・レポート	・授業観察 ・自己評価 ・発表

※　表中の観点について　a:知識・技術　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度